

千葉県内のがん生殖医療対応施設調査について

1 背景

2018年3月にがん対策推進基本計画（第3期）が閣議決定され、小児・AYA世代のがん患者に対する生殖機能障害および妊孕性温存に関する情報提供および意思決定支援体制整備が重要な課題として取り上げられている。

2 『地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会』の参加について

都道府県単位でのがん診療施設と生殖医療施設による医療連携を図るため、令和元年10月現在、都道府県単位の「地域がん・生殖医療ネットワーク」は22府県で構築されている。

医療連携がされている整備地域では、がん診療施設と生殖医療対応施設のスムーズな連携を行うため、ネットワークの構築、妊孕性温存の研修会の開催、ホームページを用いた情報提供等を行っている。

令和2年2月5日に未整備地域を対象として、現状における課題と今後のあり方を整理するため「地域がん・生殖医療ネットワーク構築を考える会」が開催された。

千葉県においては、がん・生殖医療ネットワークが構築されていないため、本県からは、がん診療及び生殖医療に携わる医師と、行政担当者が参加し、地域の実情に応じたがん・生殖医療ネットワーク体制構築を実現するための方策などを議論した。

3 千葉県内のがん生殖医療対応施設調査について

千葉県内のがん生殖医療対応機関を把握し、県内のがん診療連携拠点病院等が患者への情報提供や診療連携への活用を可能にするため、来年度千葉県がん診療連携協議会が主体となり調査を実施する。調査結果については、県内のがん診療連携拠点病院等に提供するとともに、調査結果の一部は「千葉県がん情報 ちばがんナビ」に掲載し県民や患者・家族に公表する予定。